

「学生」×「地域」カフェ

第8回「匠の里 伊勢型紙フェスタ」を活用した地域づくりへの協力

三重県戦略企画部戦略企画総務課

1 「匠の里 伊勢型紙フェスタ」について

「匠の里 伊勢型紙フェスタ」は、平成20年からスタートしたイベントで、伊勢型紙地域協議会や白子まちかど博物館などで構成する実行委員会で企画運営しており、鈴鹿市の伝統工芸品産業である伊勢型紙の振興のため、伊勢型紙とその産業を育んだ白子・寺家地区の歴史に触れていただける機会を提供し、1人でも多くの方に伊勢型紙やこの地域を知っていただくことを目的として開催しています。

学生にとっては、この取組を通じて地域のことを学ぶきっかけとするとともに、地域の伝統産業を次代へ保存するために活動されている皆さんとの交流を通じて、伝統産業の保存や地域資源の活用等について考える機会とすることを目指しました。

2 取組概要

「第8回匠の里 伊勢型紙フェスタ」を、平成27年11月7日（土）、8日（日）に開催し、地域と若者（県内大学生および短大生）が交流しました。

（1）イベントの企画検討

伝統産業の保存や地域資源の活用等について考えるため、学生がイベントの企画段階から参画し、子ども向けイベントのアイデア出し、当日の準備及び運営をしました。

また、地域のみなさんとの交流を図るため、スタッフTシャツづくりを行いました。

（2）イベント開催当日の協力について

当日は大きく分けて①鈴鹿市伝統産業会館、②伊勢型紙資料館、③語らい館「よこた」、④白子駅／鼓ヶ浦駅の4つに大学毎に分かれ、学生は着物や特製Tシャツを着用し、スタンプの受付、子供向けイベントの支援、接客販売の補助等を通じて来場者の方々をもてなしました。

